

**製品名: KCNS1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12950**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | ウサギポリクローナル抗体                                     |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB,ELISA   |
| 反応性    | ヒト、ラット、マウス                                       |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | 未修正  |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | ポリクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 1mg/ml   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | 50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。            |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量  | 57kDa                                |

**抗原情報**

|              |                                  |
|--------------|----------------------------------|
| 遺伝子名         | KCNS1                            |
| 別名           |                                  |
| 遺伝子 ID       | 3787.0                           |
| SwissProt ID | Q96KK3                           |
| 免疫原          | ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 470~550 |

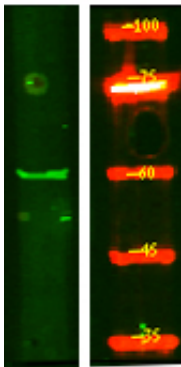
**背景**

電位依存性カリウムチャネルは、イオンチャネルの中で最大かつ最も多様なクラスを形成し、興奮性細胞と非興奮性細胞の両方に存在します。その主な機能は、静止膜電位の調節と活動電位の形状および頻度の制御に関連しています。αサブユニットには、単独で機

能するものと、電氣的にサイレントであるものの特定の機能  $\alpha$  サブユニットの活性を調節できるものの2種類があります。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、単独では機能しませんが、カリウム電位依存性チャンネルタンパク質の Shab 関連サブファミリーのメンバー1 およびメンバー2 (およびおそらく他のメンバー) とヘテロ多量体を形成します。この遺伝子は、カリウムチャンネルファミリーの S サブファミリーに属します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],domain:セグメント S4 はおそらく電位センサーであり、3 つおきに正に帯電したアミノ酸の配列を特徴とします。function:カリウムチャンネルサブユニット。チャンネルの活性を調節し、イオンの流れを減少させる。類似性: カリウムチャンネルファミリーに属する。S サブファミリー。細胞内局在: KCNB1 が存在しない場合には、細胞膜に到達せず、細胞内コンパートメントに留まる可能性がある。サブユニット: KCNB1 および KCNB2 とヘテロ多量体を形成する。ホモ多量体を形成しない。他のチャンネルタンパク質とも結合する可能性がある。組織特異性: 骨格筋を除く全ての組織で検出された。成人および胎児の脳、胎児の腎臓および肺、成人の前立腺および精巣で高発現している。、

## 研究分野

## 画像データ



HEK293 の溶解物のウェスタンブロット分析。一次抗体は 1:1000 希釈。二次抗体は 1:10000 希釈。